

国土審議会第11回北海道開発分科会

平成20年5月8日（木）

【二見総務課長】ただいまから第11回北海道開発分科会を開会いたします。

本日は皆様お忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。本分科会は、本分科会に属することとされました国土審議会委員3名及び特別委員16名の計19名から構成されております。本日の分科会は、19名のうち11名の方々のご出席をいただいておりますので、国土審議会令第5条第1項及び第3項の規定により成立しておりますことをご報告申し上げます。

なお、この外2名の委員の先生から、おくれてご到着するというご連絡を受けているところでございます。

また、国土審議会運営規則第5条及び第11回北海道開発分科会決定によりまして、原則として会議及び議事録を公開することとし、議事録につきましては原則として発言者氏名入りで公開することとされておりますので、あらかじめご了承くださいようお願い申し上げます。

本日もご出席の委員及び特別委員につきましては、お手元にお配りしました委員名簿をもちましてご紹介にかえさせていただきたいと存じます。

続きまして、国土交通省側の出席者でございますが、本日は山本順三国土交通大臣政務官が出席しております外、北海道局長等が出席しているところでございます。

これ以降の会議の進行につきましては、丹保分科会長にお願いを申し上げたいと存じますので、どうぞよろしく願いいたします。

【丹保分科会長】それでは、以後の進行を丹保のほうからさせていただきます。

今日はお忙しいところ、大変ありがとうございました。本日は山本国土交通大臣政務官がおいでくださっておりますので、まず、ご挨拶をいただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【山本大臣政務官】ただいまご紹介を賜りました国土交通大臣政務官の山本でございます。一昨日から中国の国家主席を迎えて、外交の春という状況なのかなと思っておりますけれども、5月の末にはTICADがあって、その後、いよいよ日本の外交の最大の舞台になるであろう洞爺湖サミットが行われるということでございまして、北海道を全世界に売るチャンスがいよいよ間近に迫ってきたという気持ちで今この席に立たせていただいているところでございます。平素、委員の皆様方におかれましては、国土交通行政に対しまして

格段のご配慮を賜っておりますことを心から感謝申し上げますとともに、本日、大変お忙しい中、ご出席いただきましたことを改めて厚く感謝を申し上げたいと思います。

ところで、新たな計画につきましてでございますが、昨年4月に冬柴大臣から諮問をいたして以来、分科会を4回、今日を入れますと5回になるわけでございます。計画部会を6回、起草委員会を7回と、およそ1年の間、精力的に回を重ね、食と農業や観光、北海道新幹線などを初めとして活発なご議論をいただいたところでございます。

この間、北海道開発法に基づく知事からのご意見や、あるいはまたパブリックコメントなど広く各界からのご意見を踏まえてご審議をいただき、特に北海道新幹線につきまして北海道開発委員会等々でもかなりいろいろなご意見がございました。また、ここでもご審議をいただき、そのご審議を踏まえた上で、「新函館・札幌間について所要の事業を進める」という文言を明記させていただいたところでございます。

本日、答申いただく計画（案）について、取りまとめのご審議をいただくと伺っているところでございます。北海道の未来を開くすばらしい計画になるものと期待をいたしているところでございまして、是非皆様方の闊達なご審議のほどをよろしくお願い申し上げて、一言ご挨拶にかえたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【丹保分科会長】では、山本政務官はご所用でございますので、ここでお帰りになられます。どうもありがとうございました。

それでは、議事に入らせていただきます。今、山本政務官からご挨拶いただきましたように、今日で5回目の分科会になります。分科会に至る計画部会、これは南山部会長のもとで6回の会議がございましたし、起草委員会は7回もやってくださいました。大変なご尽力の上、今ご挨拶の最後にごございましたように、新幹線等を含めて随分長いご議論をいただいて、今日ほぼ結論が固まるというところまで参りました。大変にありがとうございました。したがって、1年ちょっとの長い議論を受けて、今日は最後の決めをさせていただけたらありがたいと思っております。

まず、内容につきまして高松参事官から説明をしていただきまして、その上で議論をしたいと思います。高松さん、どうぞよろしくお願い致します。

【高松参事官】資料でございますが、資料2-1、資料2-2を用意させていただきました。資料2-1が新たな計画の全文でございます。

資料2-1の表紙を見ていただきますと、「地球環境時代を先導する新たな北海道総合開発計画」と、計画の名称を入れさせていただきました。

資料2-2において、前回の分科会から今回の新たな計画（案）について修正した箇所を一覧表にまとめさせていただいております。資料2-2を使いまして簡単にご説明させていただきたいと思っております。

修正箇所でございますが、この資料でございますとおり、表紙を追加させていただきました。

次に、「地球環境時代をリードし」を「先導し」というように、片仮名語を日本語に直す修正を幾つかさせていただいております。

中段でございます。「共通のビジョンを持ち、」の部分について「ビジョンを共有し、」と、表現の適切化を図りました。

その下、「ゲートウェイ」を「玄関口」という言葉に直させていただきました。

2ページ目に参りまして、同じように「地球環境時代をリードし」を「先導し」に直しております。

それから、「モビリティ」という言葉が何カ所か出てきます。これを脚注に入れまして、言葉の説明書きを加えさせていただきました。同じように「ライフサイクルコスト」に説明書きを入れさせていただきました。

その下、「新たな北海道イニシアティブの発揮」のところも、「リードする」を「先導する」に直しております。

3ページ目でございます。「地域におけるリーディング産業」を「地域経済を先導する産業」に直させていただいております。

中段でございます。「ホスピタリティの向上を図り、」は「来訪者を暖かく迎え、」という表現に直させていただきました。

それから、「バイオエネルギー」を「バイオ燃料」に変えました。

4ページ目、エネルギーのところでございます。「水素エネルギーや風力、バイオマス等の自然エネルギー」を1次エネルギー、2次エネルギーの順番に変えまして、「風力、バイオマス等の自然エネルギーや水素エネルギー」と直して表現の適切化を図りました。

それから、「地球環境時代をリードし」という第2節のタイトルも「先導し」に直させていただいております。また、脚注に「フットパス」を入れさせていただきました。

4ページの下の方でございます。「エコドライブ」という言葉に括弧書きで解説を加えさせていただきました。

5ページ目の「都市における機能の強化と魅力の向上（冬も暮らしやすい生活環境の創

造)」でございます。前半の「冬期に都市で多発する歩行者の転倒事故を防止するため」という下りを「冬でも快適な歩行空間の確保を図るため」とし、まちづくりの目的をはっきりと入れました。

それから、5ページの中段から下のところでございます。先ほど政務官からご紹介させていただきましており、「北海道新幹線については、平成16年12月の政府・与党申合せ『整備新幹線の取扱いについて』に基づき、着工区間の着実な整備を進めるとともに、それ以外の区間について所要の事業を進める。」という原文に対して、「それ以外の整備計画区間である新函館・札幌間について所要の事業を進める。」とし、具体的に札幌という名前を入れさせていただきました。

また、この節の一番下にございました「新幹線と一体となった公共交通機関の利便性向上」という下りにつきましては、この節の冒頭に持っていきまして、「交通機関が相互に連携・連続した利便性の高い高速交通ネットワークの形成」としました。総合的な交通ネットワークの考えの基に、それぞれ高規格幹線道路、新幹線、空港が並ぶというように、構造を見直させていただいております。

6ページ、最後のページです。「コミュニティバス」「無線アクセスシステム」についての脚注を加えさせていただきました。

それから、一番最後、付記でございます。2月20日の資料に加えまして、「計画策定からおおむね5年後に計画の総合的な点検を行う。」とつけ加えさせていただいたところでございます。修正箇所は以上でございます。

簡単ですが、説明を終わらせていただきます。

【丹保分科会長】随分長い間ご議論いただきまして、今、字句修正等を含めた修正箇所の説明がございました。基本構造に関しましては基本部会で議論を進めていただきまして、この会でも何度も、今日は5度目でございますが、4回議論を闘わせてまいりました。その結果、ここに表れたような形のものでまとめということになったわけでございます。

大方のところについては、大体合意の得られた議論であったと思いますけれども、なおご発言をいただく方がございましたら、本文について、もしくはそれに付加的なご意見であっても結構でございます。どうぞご意見をちょうだいできればと思います。今日は特になかなかご出席いただけなかった方も何人かお見えでございますので、ご発言いただければ大変にありがたいと思っております。

【上田委員】昨年4月に諮問をちょうだいするときに参加させていただきまして、それ

以降、議会の日程等と重なりまして、なかなか出席できませんでした。本当におわびを申し上げたいと思います。

この間、本当に熱心なご討議をちょうだいいたしまして、丹保先生を初め多くの皆さん方のご努力によっておまとめいただきましたことに心から敬意と感謝を申し上げたいと思います。とりわけ新幹線の新函館・札幌間の問題につきまして、大変な激論の末、所要の作業を進めるという形で札幌への延伸を明記していただいたことに本当に深く感謝を申し上げたいと思います。このような計画をしっかりと裏打ちとして、これからの私たちの活動、あるいはまちづくりをしっかりと進めていきたい、そんな目標を設定できたということで、大変ありがたく思っているところであります。

また、札幌の位置づけについても、全体の北海道の中における札幌の役割といったものについて深く考察をいただきまして、それに対する計画上の役割を明らかにしていただいたことも、札幌のこれからのあり方を検討する上で、物の考え方の背景としてこのような新しい計画があることを私どもは大変ありがたく思っているところであります。

今、札幌が一極集中などと言われておりますけれども、北海道の中においてこれだけいろんな意味での集積がある町を最大限に北海道のために使う、活用することをどうしたらできるかということを今札幌市は悩まなければならないし、そこをしっかりと外の179の市町村と議論をして、そして具体的な対策を立てていかなければならないという思いであるところであります。北海道は様々な財産があります。自然環境あるいは食の宝庫と言われるたりいたしておりますけれども、私の立場から言わせていただければ、うぬぼれではございませんけれども、札幌市というこの集積した機構、これがまさに北海道において最大の財産だろうと。これまで多くの先人の皆様方が培ってきた、そして形成された組織体としての札幌市、これを本当に北海道のために活用していく手だてを今考えなければならないだろうと思うところでございます。

地球環境の問題についても、この6月25日に私ども札幌は地球環境憲章、環境首都札幌宣言をする予定でございます。環境問題についても先導的な役割を、この北海道の3分の1ほどの人口が集積しております札幌市が頑張っていきたい、そんな思いでありますところ、この新しい計画にもそのことが明示されているということで大変ありがたく思っているところでございます。

今後の札幌市の市政のあり方等について、今回のこの新しい計画に盛り込んでいただきましたことに心から感謝を申し上げますとともに、非常に心強い後ろ楯をちょうだいした

という思いで今日出席させていただいたところでございます。私ども札幌市から感謝とねぎらいの言葉を申し上げさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

【丹保分科会長】ありがとうございます。

石崎先生、最後に新幹線の件で随分いろいろご議論があったようでございますけれども、ご苦勞をおかけしたのではないかと思います。よろしくどうぞ。

【石崎委員】会長、どうもありがとうございます。長時間の議論の末にこうして案がまとまったことについて厚く御礼申し上げます。もう新年度に入っております、本来であれば昨年度内に決定すべきものでありましたが、最終盤に来て新幹線の表記等々をめぐりまして、私どもの政治のほうでもいろいろ議論がありました。ちょうど3月末に計画の見直しをどうするかという新幹線の議論がありました。それに付随して、この計画の表記についても、もう少し前向きな表現を盛り込むべきだというのが我々の主張でありまして、大議論になりましたけれども、こういう表記になって、本体の見直し議論は先送りになりまして、概算要求時期に向けてまた再度頑張っていくということになりました。いずれにしても、札幌延伸ということが北海道経済全体にとって非常に重要な要素でありますので、この計画案をベースにしてまた頑張っていきたいと思っております。

それ以外にも計画全体に大変ご苦勞されて、つくられたものと思っております。前提として、前回は前々回も申し上げました北海道の現状というものは大変厳しいものととらえるべきだと思います。北海道の経済や北海道に暮らす人たちの暮らし、生活の状態は大変厳しいものだということを大前提に認識をすべきで、計画の原点は非常に厳しい認識を持つべきだと思います。

一方で、北海道の持っている可能性は非常に大きい。特に環境面、観光面、さまざまな面で北海道が持っているポテンシャルがこれから近未来の日本全体、あるいはアジア全域にとって非常に大きなプラス要素になる可能性を秘めている。これは特に環境面、1次産業の面、あるいは会長のご専門の水という分野においても、これは北海道の持っているポテンシャルが近未来、30年ぐらいしたらものすごい価値を生んでくる可能性があることを我々は認識しながら、この北海道のこれからを考えていかなければならないと思っております。

それから、今日は北海道局の幹部が勢ぞろいですが、この計画に盛られているのは何もハード分野のことだけではなくて、あるいは国交省だけのマターではなくて、幅広いジャンルの内容が盛り込まれているわけでありまして、閣議決定の上は、各省協力して、この計画が推進できるような体制づくりを是非お願いしたいということと、今、地

方分権の議論を引き続きやっております。道州制の議論も自民党内で大変熱心にやっております。ですから、これも近未来、地方における行政のあり方が大きく変わってくる可能性が大であるということでもあります。

地方分権の議論の中で、地方支分部局のことも随分議論されておりますが、現状のような財政の厳しい中で、今のような官僚機構を維持できるかどうかというのは大きな議論になってくると思います。そのときに、やっぱり北海道ということをもまず考えながら、どのような行政体制があるべきかということをお我々は政治の側から考えていかなければならないと思っておりますけれども、そういうときに、つまりこの10年の計画の途中段階でも、行政体制の激変は十分あり得るんだということを考えながら、この計画をどうやって実施していくかということも考えていかなければならない視点なのかなと。そういう意味では、5年で見直し規定を入れるということは大変その趣旨にかなったことではないかと思っております。以上です。

【丹保分科会長】ありがとうございます。

山本副知事、しばらくお見えにならなかったのをごさいます、どうぞ。

【高橋委員代理（山本副知事）】おわび申し上げなければなりません。高橋知事はこの委員でございますが、本会にも出席できませんでしたことを改めておわび申し上げたいと存じます。

これまで嵐田副知事が計画部会の委員として参加させていただき、いろいろご意見も述べさせていただきました。実は私、平成17年の時代、この担当でございまして、久方ぶりにこの会議に出席させていただいた次第でございます。まず、これまで丹保先生、そして委員の皆様が大変精力的にご議論いただいて、取りまとめていただいたことを改めて私からも感謝申し上げたいと存じます。そして、上田市長さん、石崎先生からもお話があった新幹線の部分がやはり私どもも大変心配してございまして、意見も述べさせていただきましたが、新函館・札幌間というのを明記していただいたことを大変ありがたく存じております。

2月でしたでしょうか、私、品川局長さんのところに北海道知事としての意見を提案させていただきました。そこでも申し上げたのでありますけれども、まずは北海道総合計画も4月からスタートいたしました。その中でも、特に北海道未来づくり戦略という8つの項目の政策展開方針を道の計画のほうでも打ち出してございまして、そういう道の総合計画と国の計画とがうまくこれからも連携して、それぞれ実効性を高めていただければと思

っております。

それから、この知事の意見の中でも申し上げたことではありますが、地域それぞれに課題を抱えております。この国の計画を着実に進めていくに当たりまして、それぞれの地域の関係者、つまり国、道、市町村、民間団体、皆様がそれぞれ議論をして、そして課題を解決していく、そうした場をつくっていただき、そこで時々の課題について解決策を見出していくことが必要なのかなということで、そういう場づくりについてもご提案をさせていただきました。具体的には地域づくり連携会議という形で新年度からスタートしていただけると伺っておりますが、ぜひこの地域づくり連携会議の機能を十分に果たしていただいて、地域の課題についての議論をそこで深めていただければと思っております。

それから、国の計画のフォローアップというのがこれからまた続いていくのだろうかと思存しますが、そのフォローアップの場にも是非北海道も加えさせていただきます、共にこの計画の着実な推進に向けて議論させていただければと思っております。

もう1点、最後でございますが、この計画（案）につきまして、できるだけ早期に閣議決定をしていただきまして、そして着実にこの計画に盛り込まれている事業、施策が進められることをご期待申し上げます。本当に丹保会長を初め委員の皆様、私からも知事に代わりましてお礼を申し上げさせていただきます、意見とさせていただきます。ありがとうございます。

【丹保分科会長】 それでは、国会議員の先生方がお見えでございますので、今、バックアップをしっかりしてほしいと。もちろん役所のほうもすると思えますけれども、政治家の皆様がどれだけ押ししていただけるかというのは、今、大変大事なところへ来ていると思うものでございますから、もしよろしければこちら側から順番に、最後、橋本先生になりますけれども、どうぞ相原先生からお話しいただけますでしょうか。

【相原委員】 私は途中からの参加でございますが、そもそもこの計画（案）にかかわる機会が少なかったのですが、皆様のご意見の中からはくり上げられたこの計画（案）を見させていただきます、私は北海道人として、本当にこの国を導く基幹になるものが相当含まれているなという思いがいたしましたので、しっかりと私どももバックアップしてまいりたいと思っております。本当にありがとうございました。

【飯島委員】 飯島でございます。今日は委員会がございまして、大切な会議に遅刻しましたことをまずおわび申し上げます。

これまでいろいろとありがとうございました。この新たな計画（案）に沿って具体的に

実施できていくように頑張っまいりたいと思います。現場に目を向ければ、やはり先ほど石崎先生からお話がありましたように、現実の北海道民の生活は非常に厳しいものがあると認識しています。インフラ整備もおこなわれておりますし、非常にわずかな人口で広大な面積を支えているという中で、基幹産業もいま1つ光が当たらない。いろいろな問題もござります。

また、道州制の話も進んでいますけれども、例えば四国や九州が道州制を早くやりたいと言っているのに比べますと、北海道の場合は非常に面積も広大ですし、さまざまな自然環境等の背景の中で、例えば河川の管理や港湾の管理、そういったことも、道州制で北海道が全部ひっくるめてできるだけ体力やそういったものが今そろっているのかというと、まだまだ必要なもの、そろえていかなければいけないものがたくさんあるかと思えます。それから、北海道局の役割というものもまだまだ必要な部分が多いと思えますので、連携をしっかりととりながら、地域の必要な要望に具体的にこたえつつ、この計画がしっかりと実現されるよう頑張っまいりたいと思います。ありがとうございました。

【橋本委員】会長を初め委員の先生方にここまで取りまとめていただきまして、私も委員の1人として、改めて皆様方に感謝を申し上げたいと思います。

今回の新たな北海道総合開発計画に関しては、やはり大自然という北海道のすばらしい魅力を最大限引き出していくことも大事なんですけれども、今はまさに環境の時代でもありますので、北海道の大自然というすばらしい環境資源をどうやって同時に守り、育てていくのかというすごく難しい時期に今来ているのかなと思っています。そういう意味では、食の問題も含め、エネルギーの問題のことも含めてですけれども、アジアだけではなくて、世界から注目をされる北海道になるべきではないかなといつも思っているところなんです。

いつもお話しさせていただくんですけれども、どこへ行っても北海道というのは、必ず行ってみたいところ、住んでみたいところということで、全国各地を回っても、北海道の人気は今もすばらしいものがあるんですが、そこをさらに今度は、住んでみたいところということから本当に住みたいところに変えていくにはどうしたらいいのかと思います。まさにハードとソフトの面をしっかりと関連させて、北海道を本当に魅力のあるものにしていかなければいけないときだと思っています。

今回のこの計画（案）は、私にとってもすごくすばらしいものができたと思っているんですが、これを実施するには、やはり何といたってもしっかりと財源がなければせつか

くのすばらしい計画も進んでいかないわけでありますので、そういう意味におきましてはしっかりとまたサポートをさせていただきたいと思っておりますので、会長を初め委員の皆様方にも是非ともご指導いただきたいと思っております。ありがとうございました。

【丹保分科会長】 それでは、専門の先生方、今日はお2人でございますか。家田さん、井須さん、櫻庭さん、いらっしゃいますね。それでは順番に、最後に部会長の南山さんに締めさせていただきますけれども、どうぞ。

【家田委員】 どうもご苦労さまでございました。一時はどうなることかと思っただような随分緊張感のある分科会だったんですけれども、まとまったということで、私も喜ばしく思っております。感想を1つ申し上げて、あとはささいなマイナーチェンジのところだけ申し上げたいと思っております。

これは随分時間をかけて議論をして積み上げてきたので、必要な事項、北海道の持つポテンシャルのようなものは非常に的確に入っている、いい計画になったと思っております。とはいいますが、このごく最近の期間の中でも状況は刻々と変化していますよね。例えば世界的なオイル高、これはもちろん一時の金融の問題ですけれども、多分これからうんと楽になる状況にはないわけで、こういうオイル高は北海道みたいなところに一番ヒットするわけですね。状況が苦しいわけです。同時にまた、これは北海道に限った話ではないですけれども、道路特定財源の問題も状況が一時期とは随分変わってくる。そういう中で、ここに書いてある文言は、希望を持つという意味ではいいことが書いてあるんだけど、常に状況の変化に対して冷静に対応して、書いてあることの見直しが必要なものはきちんと見直すことが一番重要と考えているところでございます。

そのように思いますと、このペーパーの一番最後のところにある付記ですね。附帯事項ということなんでしょうか。「『政策の企画立案→実施→評価→改善』というマネジメントサイクルに沿って政策評価を積極的に進め、」と書いてあるわけですが、特にこれ以上文言は必要ないと思っておりますけれども、このところの特段の意味は、やはり周辺の状況変化に対して敏感に見直していく。しかも、新幹線については随分センシティブなところで、先生方もご関心を持ったようですけれども、より重要なのはここに何を書くかという問題ではなくて、それをどう実施するかであって、実施やその後になると何の関心もないという話では何のための政策かわからないですものね。是非国会議員の先生方には、そこら辺までも面倒を見ていただくというのを、私、専門家の側からも是非お願いをしておきたいと思っておりますし、その際にはここにある評価というの、政策当局がきちんと政策を行って

いるかという評価ではなくて、周辺状況の変化に対して計画が依然としての確なものであるかという意味でのチェックを怠らないようお願いしたいと思います。

あと、非常にマイナーなことで、特に今すぐどうこうということではないんですが、最終的に印刷物にする時の話なんですけれども、ここにありますように、 unnecessaryな英語表現、横文字表現がだいぶ減って、日本語がふえたのは適切な話だと思います。その上で、本当にささいなことで気がついたことを申し上げますと、6ページにモビリティの定義が出ています。これは人の交通に限定した用語というふうに解説されているようでございますけれども、これは人にも物にも使う。ただし、この場合には人に使っているということがあったほうが、解説としてはよろしいのではないかと思います。

それから、15ページのところに同じくフットパスの解説が出ていますが、このフットパスと書いてある解説の用語は遊歩道という意味でありまして、この意味で使うのだったら、フットパスと言う必要はなくて、遊歩道と言えば済む話であります。

それから、ここは半ばどうしたらいいのかわからないんですが、8ページのところではタイトルで「グローバルな競争力」という表現があるんですが、その数ページ先には「国際競争力の高い」という表現があります。意味が使い分けてあるならいいんですが、もしそうでないならば統一されたほうがいいのではないかなと思いました。非常にマイナーな話ですので、特に議論していただくよりは、事務局で最終的にご対応いただければいいと思います。以上でございます。

【丹保分科会長】では、これは後でまた……。

それでは、井須委員、お話しいただけますか。

【井須委員】私、先般の分科会するときにも申し上げたんですが、当時、これはまだ素案でございましたけれども、読ませていただきまして、大変に感動を覚えたことと申し上げたことを記憶しております。改めてでき上がったものを見て、非常に難しい時期にこれだけのものをつくっていただいたことに対しまして、委員の皆さん方、それからご担当の役所の皆さん方、そして起草された先生方に深い敬意を表し、感謝を申し上げたいと思っている次第でございます。

そして、今、家田先生からおっしゃられたことはまさに私も申し上げようと思ったことですが、ここ数カ月でもう既に非常に変わってきている。しかも、どのように変わってきているかという、北海道の位置づけが非常に高くなってきていると思います。第一に、世界的に食料不足です。食料の値段が猛烈に上がっている。それでいながら、我が北海道

でつくればまだまだできる農産物が何とか世界の人々の役に立つように、これからならどんどんできると思います。

これもお話がありました、これは丹保先生のご専門の水であります、水も世界的にいい水が不足している。こういったようなことで、私は前にも言ったかもしれませんが、北海道はやがてはきれいな水を輸出するようになるだろうということも考えているわけがあります。そういう意味で、北海道の新しい世紀ということで私はこの計画（案）を受けとめているといいますか、そういうことだと思うんです。特にこれから、食料の自給率が日本全体で30%台にまでなってしまった今としては、北海道は日本のために絶対なくてはならないところでありますし、また、世界のためにも絶対に役に立ち得る立場になったと思ひまして、そういったこともこの中には相当触れられておりますので、非常にありがたいなと思っております。

私も年でございますから、これから幾ら役に立つかわかりませんが、老骨にむち打ちまして、一生懸命頑張りたいと思ひますので、よろしくお願ひいたしますと同時に、皆さん方にも今後とも頑張ってくださいますようお願い申し上げ、感謝を申し上げまして、私のお話とします。どうもありがとうございました。

【丹保分科会長】 それでは、櫻庭先生、ニシンがとれ始めているようでございますけれども、漁業の話をいただければ……。

【櫻庭委員】 私のほうからは特には申し上げることはございませんけれども、あとは着実に計画を実行、推進をしていただくことを強く望むところです。終わります。

【丹保分科会長】 ありがとうございます。

吉川委員、おいでになってすぐで恐縮なのでございますが、1人ずつお話をいただけるものであればと願ひしておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

【吉川委員】 大変遅れて参りましたことをおわび申し上げたいと思ひます。

この計画が具体的な施策にしっかりとした形で反映されなければ、計画の持つ意味がございませんので、この施策にしっかりと反映されて、北海道の発展につなげていけるように、これから共に具体的な活動をさせていただきたいと思っております。丹保分科会長を初めとする皆様の大変なご努力に心から敬意を表したいと存じます。ありがとうございました。

【丹保分科会長】 生源寺先生、農を代表して……。

【生源寺委員】 大小さまざまな議論の成果をこういう形で事務局の方にまとめていただきまして、大変いいものができたと思っております。

私、食料と農業のことが専門でございまして、先ほど井須委員もおっしゃいましたけれども、随分状況が変化しております。私自身は、多少一時的に鎮静化するようなフェーズもあるかなとは思っております。しかし、中長期的に見れば、確実に世界の食料自給はタイトになっていくと思いますし、その意味では、これは北海道民のためということのみならず、この国全体、あるいはアジアの人々にとっても非常に大事なポジションを固めつつあるといいですか、あるいは求められつつあると思っております。ある意味では、生きる力の源泉が北海道にあるという表現が私はできるように思っております。

もう1つ、これは全く個人的な体験ですが、私自身、北海道で暮らした時期からもう20年以上たっておりますけれども、時々参ります。実は大学の中の管理職を拝命いたしまして、ある種の本の中で、おまえは東京大学の中で一番好きな場所はどこかという質問に答える機会がございました。そのときに私は、富良野にございます東大の演習林、その中かなり奥に入っていくんですけども、どうどうと音を立てるような湧き水がございまして。私が行ったのは夏の初めのころでしたけれども、その湧き水の近隣にウラギンヒョウモンというチョウが乱舞しております。これが非常に印象に残っていたものですから、そこが一番好きなどころだと申し上げました。

食料という点では、生きる力の源泉が北海道にあるという気持ちがございますけれども、同時に生きる喜びを実感できるような場所が北海道にはあちこちにある。そんなことを頭に浮かべながら、改めてこれを拝見している次第でございます。

【丹保分科会長】 それでは、最後になります。最初から終始リードをしていただきまして、一番ご苦労いただいたのかもしれない南山部会長からお話をいただきたいと思っております。

【南山委員】 では、これまでもいろいろとお話をさせていただきましたので、あまり改めて申し上げることはありませんけれども、こういう形にまとまりました。これまで分科会はもちろんですけども、初めから言いますと、基本政策部会、計画部会と非常に多くの方々の今後の日本の課題をどうやって解決していくか、あるいはその中で北海道の発展をどうやって図っていくか、こういうことについての意見や思い、そういったものが形をとって表れたものだと私は受けとめております。

しかし、いずれにしましても、これは実施して意味のあるものであります。実施に当たっては、緊急のものは言うまでもありませんけれども、長い目を見て、国あるいは北海道の発展に役に立つ、言いかえれば非常に重要な意味を持つ、そういう中身、あるいは方法、そういうことを選択に十分配慮をしていただきたいと思います。同時に、関係する自治体、あるいは

関係する団体の皆さんとも意見の調整といいますか、直接影響を受ける人、実施する人たちの考えもよく吸い上げた上で実施をしていただきたいと思います。どうも長い間本当にありがとうございました。

【丹保分科会長】ありがとうございました。

加えてご意見をいただく方、いらっしゃいましょうか。よろしゅうございますか。

本当に長い間ご議論いただきました。食料が200%、エネルギーベースで自給率があるわけでありますが、人口密度が日本全体の4分の1ぐらいを割っております。そこが次の時代、我々にとってどういう財産であるか。恐らくエネルギーが北海道の一番弱点だと思います。このエネルギーは徹底的に弱点だと思いますけれども、これを何とかこなせば、あとは日本がこけたときに最後に踏みとどまるカートになれる場所だと私はずっと思っております。ただ、そのためには、カートですから、しっかりした骨を持っていないといけませんので、そういうことに対してどのように進めたらいいんだらうかということの議論をいただけたのかなと思っております。

地球でございまして、まん丸いわけでございますけれども、こういう1つの坂がありまして、向こうは見えないんですけれども、この坂の頂上近くを多分我々は歩いているのだと思います。その一歩先へ出ると、全然違う世界が広がるときに、北海道は先の世界に行ったときに踏みとどまれるものをまだ持っている。場合によっては、後ろから来たものがこけたときに、それを支えることができる北海道というものが、もしかするとかつてエネルギーが日本を支えたのと同じような意味で、違う、新しい時代を創成的に支えていくことが始められるのではないかなと思います。

韓国はソウルに3分の1も人口が集まっております。北海道は札幌に集まっております。しかし、それと対応して、それを支える農村がなかなか活発には動けない状況になっておりますし、雪もありますし、何せエネルギーと交通網がこれからだんだんどのようになっていくかということもまだ十分にでき上がっておりません。ここでいろんなことをご議論いただきましたものを受けて、国と道と道民とみんなで頭を寄せ合って頑張っていくと、多分私どもの子どもの時代、孫の時代、恐らく2050年ぐらいには大変大きな変化が世界に起きるだろうと思います。そのときに北海道がちゃんとしたことをやってきたなということこれから30~40年やれる1つの糸口ができたのかなと思っております。

絵に描いた餅ではございませんので、これをどうして物にしていくか。ただ、残念なことは、私の出身が出身なのでございますが、国土審議会の中の部会でございますので、教

育のことをほとんど議論できませんでした。次の世紀を考えれば、教育を議論しないで次の世紀はないのでございますけれども、もしかして北海道で最大の輸出物があるとするれば人間だということになれば、その議論が十分できなかったのは、場所柄、残念に私は思いますけれども、これは個人の気持ちでございますので、これはまた別のところでご議論いただくことにして、きっと新しい時代がここから動いてくるだろうと思います。

道も総合計画を策定になりましたから、それとうまくシンクロさせて、また、札幌市も北海道の首都としてのご議論を始めていただいております。これはやはり食べさせるものと食べさせられるものとの関係でございますので、リードしながらも、やっぱり食べさせてもらうという大都市の持っている位置もでございますので、それをどのようにこの北海道の上に描いていくか。何も本州と切り離して議論する必要はございませんけれども、やはり自分たちが何ができるかということが少しここで書かれてきたのかなと思います。これは南山部会長を初め部会の皆様方の何回も何回ものご議論の成果であろうと大変に感謝いたしております。

非常に乱暴な総括でございますけれども、もしこのようなことでよろしいのではないかとみんなで思っただけならば、これを決めてよろしゅうございましょうか。議決という形をとらせていただいでよろしゅうございましょうか。(拍手)

それでは、この案を決めていただきました。ありがとうございます。

では、分科会として計画(案)ができましたということでございます。できたすぐでございますが、部会が大変ご尽力いただきましたが、部会は最大の役目を終えましたので、部会を廃止させていただくということも決めたいと思いますが、よろしゅうございましょうか。(拍手)——南山部会長、ありがとうございます。

それでは、また総務課長にバトンを渡します。

【二見総務課長】どうもありがとうございます。

本日のこの後の予定でございますけれども、この後、冬柴大臣が参ることになっております。丹保分科会長から冬柴大臣に対しまして答申を手交していただくことを予定しております。冬柴大臣到着まで、今しばらくお待ちいただければと思います。

【丹保分科会長】それでは、時間がございますので、いろいろご議論があった中で、事務局で品川局長がいらっしゃっていますから、品川局長からいろんなことについて受けのお話があればお願いします。

【品川北海道局長】ご議論ありがとうございます。

これまでいただきました議論、すべてが計画に反映できたわけではないということは十分あることでございます。ご意見につきましては、計画の推進に当たりまして重要な事項でございます。具体的な政策の展開に生かしてまいりたいと考えております。とりわけ先ほどもご意見を賜りましたが、具体的な施策の展開をどうするかというところでは幾つかの問題で意見をいただいたと思います。

その1つとしては、既に北海道環境イニシアティブという形で今年の予算要求にも盛り込ませていただいております。これは北海道サミットがある関係で、それに合わせての政策提示であったわけですが、こういった政策パッケージという形で私ども行政として進めていきたい、もう少し具体的な進め方をこういった形で進めていきたいということを念頭に置いて、これから組み立ててまいりたいと思っております。

それから、当然、そういった中では、体制づくりということが必要になってまいります。先ほど山本副知事からお話がありましたように、私どもとの関係で言いますと、現在もあります地域連携会議をさらに発展的にしたいと考えてございます。そういった中で具体化を図り、当然、この計画の主役は道民の皆さんでいらっしゃいますから、そういうことを念頭に置いて行政として取り組んでまいりたいと考えております。

さらに私ども、幸いにしてと言いますか、行革の議論もございましたが、現地で実施できるシステムを現在は持っております。開発局というシステムがその1つでございますし、さらにその出先機関を持っているわけございまして、現地で何かを定着させる、あるいは物事を進める上では大変恵まれたシステムを持っていると考えてございます。これを最大限生かしていきたいと考えております。

それから、フォローアップについて幾つか意見を賜りました。これにつきましては当然と言えば当然でございますが、この分科会を主体にして、また必要に応じて部会を設けていただくなどして、このフォローアップの議論を進めていくことを私どもは今考えているところでございます。当然、その前提になりますいろんな評価につきましては、また各段階で各先生のご指導をいただくことになると思いますので、よろしく願いたいと思っております。

それから、前後いたしました、幾つか家田先生から文言につきましてお話をいただきました。これにつきましては、今の段階でどこまでできるか正直言ってありますけれども、できる範囲で検討させていただきたいと考えております。

それから、事務的な話になりますが、今後、閣議決定ということになるかと思っております。

ます。これはこれをもって正式な国の計画ということになります。あわせてこの段階で、知事さんからいただいております道民を代表しての意見でございますが、これに対してあわせて閣議決定をいたした正式なお答えをさせていただくという段取りになろうかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

いずれにしても、今後とも委員の皆様方にはいろんな場面でお力添えをいただくことと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

【二見総務課長】こちらの入り口の近くのところで答申の手交をさせていただきたいと思っております。写真撮影をされる方は近くに来ていただいて結構でございますので、よろしくお願いいたします。

〔冬柴大臣入室〕

【丹保分科会長】それでは、答申ができましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

〔 答申手交 〕

【二見総務課長】では、大臣、分科会長、どうぞ席のほうにお移りください。

【丹保分科会長】それでは、冬柴大臣がお見えでございますので、ご挨拶をいただけたらと思います。

【冬柴大臣】皆さん、こんにちは。

ただいま丹保分科会長から新たな北海道総合開発計画についての答申をちょうだいいたしました。一言御礼のご挨拶を申し上げます。

昨年の平成19年4月に、私から新たな計画策定についての諮問を申し上げまして以来、委員の皆様方におかれましては、大所高所からの忌憚のないご意見を賜りました。また、シンポジウム等を通じまして、その計画の周知につきまして、広く国民にも周知されるためのご努力もされたと聞いております。その中で、本日はこの北海道の未来を開くすばらしい総合計画を取りまとめていただいたわけでありまして、丹保分科会長、また南山部会長を初め委員の皆様方に対しまして、心から敬意と感謝を申し上げなければなりません。本当にありがとうございました。ご苦労さまでございました。

北海道はアジアの中におきましても、本当に魅力あふれる可能性の大きな地域でございます。昨年1年間だけを見ましても、北海道はアジア向けを中心とはいたしておりますけれども、輸出量を大きく伸ばしておられます。鉄鋼や機械類、あるいは食料品というものを中心でございますけれども、対前年度比では1.18倍、金額にいたしましては3,635億円に達しているわけでございます。また、北海道への観光客も引き続いて伸びてお

ります。18年度には前年度比では1.15倍、59万人の外国人の方々が旅行に北海道を訪ねておられて、盛況でございます。とりわけ韓国からのお客様が激増をしております、この18年には実に1.91倍、ほぼ2倍でございます。そのような中で、今年の7月には北海道洞爺湖サミットが開催されるわけでありまして、北海道のこの魅力、あるいは先駆的な取り組みというものを世界に広く発信する絶好のチャンス到来であると思っております。

しかしながら、このように明るい面を並べましたけれども、北海道には苦しい面もございます。長引く経済の低迷、あるいは厳しい就職状況、それからまた人口も減少を進めているわけでございます。しかし、何といたっても、この大きな可能性を秘めた北の大地が先駆的な先導役として我が国を引っ張っていただくためには、本日ちょうだいしたような総合計画というものを、道民だけでなしに、日本国民に広く周知をしていただきまして、そしてこれに各界、各層の方々が参加をされる、それぞれの立場で参加をしていただくということが大事だと思います。私もその先頭に立って努力をさせていただくことを皆様方にもお誓い申し上げる次第でございます。

最後になりますが、先生方におかれましては、この答申をちょうだいしたことで終わりではなく、今日をまたスタートとして、北海道のこの発展のために皆様方のすばらしい知見、ご指導を賜りますように心からお願いを申し上げまして、本日のお礼といたします。本当に皆さん、ありがとうございました。(拍手)

【丹保分科会長】 どうもありがとうございました。

今、大臣からお話をいただきました。去年の4月、2007年4月に諮問をいただいからほとんど1年がたちました。1年間、大変なご議論をいただきました。激論であったこともございますし、大変な知恵をいただいたこともございますし、これではとてもやっていけないと思ったこともございますし、いろんなことがあって、そのほか先ほどからお話がありましたように、世界情勢がものすごい速さで動いてしまいました。1年間で表側と裏側のちよっぴりまでも見えてきたような1年であったように思います。

それに対して、議論をしていただきましたことが十分にこたえられるような形になってまとまっているかどうかわかりませんが、これを1つのたたき台にして、今、大臣からもお話がございましたし、各委員からもありましたように、これができたから何ができるというわけではありませんので、これからもしっかりとこの分科会として行き先を見守って、一緒に議論を進めていって、必要に応じて、また5年たつともう一回見直しをす

るというふうに書いてございますので、それに向かっていろんな情報を蓄積して、情報を蓄積するだけではなくて、皆さんとリンクをとりながら、北海道をどうしたらいいか。恐らく北海道がどうなるかということが、先ほど申しましたように、日本が何か起こったときにカートで踏みとどまることができるかどうかということにもきつとなると思いますので、2050年というあと40年ぐらい先に北海道がどうなっているかということも見えるような形での努力をこれから始めていきたいと思えます。分科会の委員の皆様方にどうぞ支援とご尽力のほどをよろしくお願い申し上げたいと思えます。

これをもちまして分科会を終わらせていただこうと思えます。どうも長い間、ありがとうございました。大臣、どうもありがとうございました。(拍手)

【冬柴大臣】 どうも本当にありがとうございました。

【二見総務課長】 それでは、閉会いたします。

— 了 —